



高知大学  
Kochi University

All roads *lead* to the future リード

# Lead

コミュニケーションペーパー

2018 冬号  
Winter

No. 024



〈特集〉

## リハビリ医の 研究・活動を追う

キラ星高知大生  
日本画を始めて4ヵ月  
高知県展で新人賞を受賞!

ぼくらのキャンパスライフ  
楽しみながら、臨床のノウハウを学ぶ  
ACT-K

高知大学の魅力再発見  
第1回高知大学フォトコンテスト

高知大学ニュース

まなびの時間  
まるで博物館での展示解説 考古学の論点

Labo通信  
世界屈指のノウハウを  
学生に伝授!



# リハビリ医の研究・活動を追う

高知大学医学部は附属病院を有し、臨床研究のほか、地域医療の向上にも貢献しています。幅広い視野が必要なりハビリテーション専門医は、どのような研究・活動をしているのでしょうか。



障害を負った人は、どう暮らせばいいのか？

脳卒中の患者さんはもちろん、交通事故でけがをした人、将来の要介護につながるメタボやロコモ(※1)の人も。医学部附属病院リハビリテーション部准教授、石田健司先生の元には、さまざまな人が訪れます。「障害を負った人を可能な限り、元の生活に戻す。ノーマライゼーション(※2)という大きなくくりのなかで、みんなと同じように暮らすにはどうしたらいいのかを考える。これがリハビリ医の仕事です」と石田先生。医学部の前身である高知医科大学に入学して1年目、障害を負った幼児と深く接したことをきっかけに、リハビリ医を志したそうです。幅広い領域で活躍するリハビリ医のなかでも、石田先生の活動は異彩を放っています。注目すべき研究のひとつが、1997年、開学間もない高知工科大学と始めた医工連携によるリハビリ機器の開発です。いまでは多くの大学で医工連携を行っています。当時はほとんど例がなく、全国の先駆けともいえる取り組みでした。

## 高知工科大学とのコラボで 個性的な機器を次々開発

当初開発したもののひとつが、歩行障害のある人のためのリハビリ機器です。「じつは、私は機械オンチなんです(笑)。でも、医療の現場では



6軸乗馬ロボット 高知工科大学王教授所有 家庭用ジョーバ® 初代



三世代ふれあい健診(黒潮町)



プールを利用した水中運動(室戸市)



ジョーバ®によるフィットネス(旧佐賀町)

## 要介護者を減らすには メタボとロコモの予防を

介護予防もリハビリ医の重要な仕事と考えている石田先生。高齢化率が全国第2位の高知県で、メタボやロコモの予防に力を入れています。「脳卒中などを引き起こし、急激に悪くなる原因となるメタボ。じわじわ悪くなっていくロコモ。この2つ

車椅子利用者向けのトイレ介助機器「クルットボン」も医工連携で開発しました。便器のすぐ手前に設置。フレームをつかんで立つと、台座が180度回転し、便器に無理なく座ることが出来ます。「こうした医工連携は、高知工科大学の先生などとの良い出会いがあつて可能になりました」と石田先生は話します。



クルットボン

が介護予防の両輪で、どちらが欠けてもいけません。いずれも改善できるように、予防・啓蒙活動と地域でのリハビリに取り組んでいます」全県下を視野に入れた取り組みが、ITによる動画通信システムを利用した啓蒙活動です。地域の介護関係者などを対象に、遠隔講演を実施。高知県が整備した高速通信回線「高知県情報スーパーハイウェイ」を使って、最大10地域と同時に接続することが出来ます。



遠隔教育支援(土佐町)

地域住民を巻き込んだ活動も、石田先生の得意とするところです。高齢者の健診受診率の低い地域に対して、改善に向けて一計を案じました。「孫世代の小学生に、高齢者の健診の一部を担当してもらったんです。孫を「だし」にし、参加を促したわけです(笑)。これで受診率は大幅に上がりました」と活動を振り返ります。

この試みは、現在もリハビリテーション部水野靖典先生によって継続されています。

メタボ、ロコモ予防に欠かせない運動も、石田先生は積極的に指導しています。ひとつは地域のプールを利用した水中運動。1回60分・週2回・6週間のコースにより、膝関節痛などが改善し、筋力や歩行能力も向上しました。もうひとつのプログラムはサーキットトレーニング。一般的な筋力訓練などに加えて、「ジョーバ®」によるフィットネスも行い、筋力・体力アップにつながることができました。

こうした運動プログラムへの参加を促すのにもひと工夫。「地域のリーダーを育成し、実際に高齢者を訪問して、声をかけてもらうようにしました。何度も誘われると、腰の重い人でも、まあ行ってみるか…となるのが人情ですから」と地域の人たちの結び付きを介護予防につなげました。

じつに幅広い取り組みをしている石田先生。「団塊の世代が75歳を迎える2025年に向けて、介護予防に1層力を入れていきます」。今後、高知県の高齢者が健康を維持していくため、石田先生の活動は非常に大きな意味を持っています。



医学部附属病院  
リハビリテーション部 准教授  
石田 健司

高知県出身。高知医科大学卒業。同大学整形外科、国立高知病院、宮城県栗原市立栗原中央病院副院長、東北大学臨床教授などを経て、高知大学医学部附属病院へ。専門は運動器によるリハビリ。「運動しないリハビリはないので、王道だと思っています。要介護、要支援にならないためにも、運動は非常に大切です」

世界屈指のノウハウを学生に伝授!

# Labo通信

ラボ通信  
通信

理工学部化学生命理工学科 杉山研究室

教員 杉山 成 教授

「X線結晶構造解析法」という手法を使って、たんぱく質の形や、薬との相互作用などについて研究します。たんぱく質の種類は非常に多く、ゲノム解析によって数万種類もあることがわかっていきます。私たちが健康を保てるのは、それぞれのたんぱく質が正常に働いているおかげです。その逆に異常な働き方をすると、体の中で悪さをして病気になってしまう。



たんぱく質を結晶化させる技術には、自信があります!



「たんぱく質の構造を知るための最も有効な方法が、私の専門とするX線結晶構造解析法です。ただし、解析するにはたんぱく質を結晶化させなければいけません。私はその手法について、主に研究してきました。」

「たんぱく質の構造を知るための最も有効な方法が、私の専門とするX線結晶構造解析法です。ただし、解析するにはたんぱく質を結晶化させなければいけません。私はその手法について、主に研究してきました。」

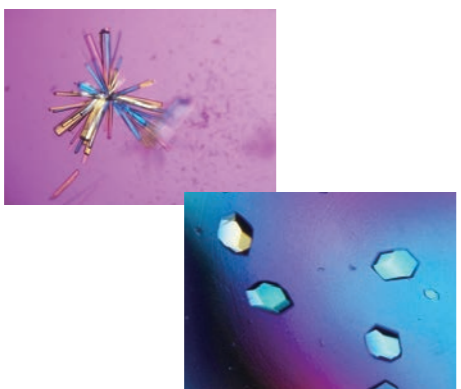
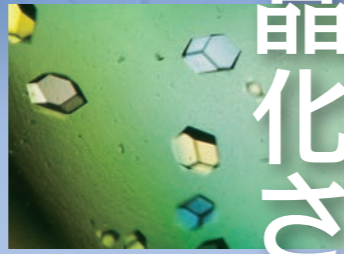
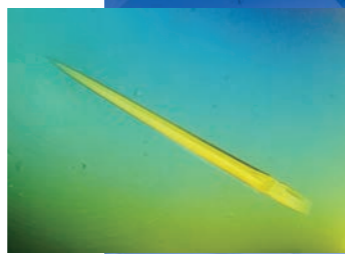
**PROFILE**  
教育研究部 自然科学系  
理学部 教授  
杉山 成 すぎやま しげる  
京都府出身。姫路工業大学工学部卒業、博士(工学)。協和発酵工業研究員、ベンチャー企業CEO、大阪大学大学院特任准教授などを経た異色の経歴。「たんぱく質の結晶化については、世界で闘っても勝てるという自信を持っています」高知の印象は「よさこい祭りに感動しました!踊り子さんが本当に楽しそう。次はあの輪の中に入りたいですね」

## たんぱく質を結晶化させよう!

「病気の原因はたんぱく質にあるのですか。」  
「そうですね。だから、薬を開発するには、たんぱく質の形を知ることが欠かせません。たんぱく質には「くぼみ」があつて、そこに薬がピタッとハマると、異常な働きを抑えることができるんです。たんぱく質が「鍵穴」だとすると、薬は「鍵」の形を正確に知る必要があります。ところが、たんぱく質は非常に小さくて、10億分の1m程度しかありません。」

「たんぱく質の構造を知るための最も有効な方法が、私の専門とするX線結晶構造解析法です。ただし、解析するにはたんぱく質を結晶化させなければいけません。私はその手法について、主に研究してきました。」

「たんぱく質の構造を知るための最も有効な方法が、私の専門とするX線結晶構造解析法です。ただし、解析するにはたんぱく質を結晶化させなければいけません。私はその手法について、主に研究してきました。」



遺物の出土位置を記録する(朝倉城跡)

「考古学」とは遺跡や遺物などを通して、過去の生活や文化を考える学問です。共通教育の「考古学の論点」を担当する宮里修先生は、その面白さを次のように表現します。

「考古学の論点」の授業では、遺跡や出土品といった資料の写真や図面を見せながら、宮里先生がくわしく

「考古学の論点」の授業では、遺跡や出土品といった資料の写真や図面を見せながら、宮里先生がくわしく

「考古学の論点」の授業では、遺跡や出土品といった資料の写真や図面を見せながら、宮里先生がくわしく

「遺跡や遺物などの資料は、かつて本当に存在したものの。当時の人が実際に触り、生活していた空間のことを調べるわけです。ここがほかの歴史学とはまったく違い、考古学の最も面白いところですね」

「遺跡や遺物などの資料は、かつて本当に存在したものの。当時の人が実際に触り、生活していた空間のことを調べるわけです。ここがほかの歴史学とはまったく違い、考古学の最も面白いところですね」

「遺跡や遺物などの資料は、かつて本当に存在したものの。当時の人が実際に触り、生活していた空間のことを調べるわけです。ここがほかの歴史学とはまったく違い、考古学の最も面白いところですね」

「遺跡や遺物などの資料は、かつて本当に存在したものの。当時の人が実際に触り、生活していた空間のことを調べるわけです。ここがほかの歴史学とはまったく違い、考古学の最も面白いところですね」

## 「考古学の論点」

「遺跡や遺物などの資料は、かつて本当に存在したものの。当時の人が実際に触り、生活していた空間のことを調べるわけです。ここがほかの歴史学とはまったく違い、考古学の最も面白いところですね」

「遺跡や遺物などの資料は、かつて本当に存在したものの。当時の人が実際に触り、生活していた空間のことを調べるわけです。ここがほかの歴史学とはまったく違い、考古学の最も面白いところですね」

「遺跡や遺物などの資料は、かつて本当に存在したものの。当時の人が実際に触り、生活していた空間のことを調べるわけです。ここがほかの歴史学とはまったく違い、考古学の最も面白いところですね」



発見した遺構を測量する(朝倉城跡)



出土遺物の整理作業(考古学実習室にて)



2017年度発掘調査の参加者(朝倉城跡)

「考古学の論点」を受講し、考古学に興味を持った学生は次のステップへ。2年生のときに「考古学概論」「考古学基礎演習」を取り、もっと専門的に学びたいと思ったら、3年生で「考古学演習」「考古学実習」を受講することができます。

11/30  
(THU)  
授賞式



「境」

人文学部4年  
浅野 麻里  
2016年11月5日撮影

● 作品について

秋から冬の夕方にきれいにオレンジに染まり、気になっていた場所を人がいない時を狙って撮影しました。



「オワッリ」

農学部4年  
上田 修平  
2017年8月31日撮影

● 作品について

8月末、昼下がり。あつという間に夏も終わり、物部キャンパスの田んぼと青空、控えめな入道雲をバックに。



「高知大学の空の玄関口、  
物部キャンパス」

農林海洋科学部(教員)  
小野寺 健一  
2017年9月29日撮影

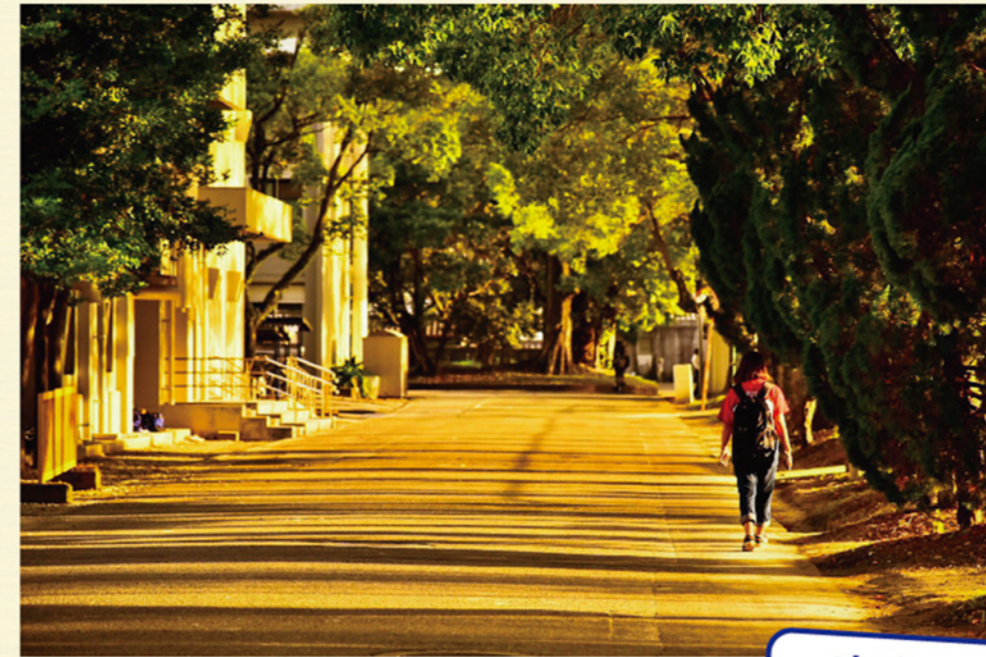
● 作品について

物部キャンパスは空港にもものすごく近い。果樹園と牛舎の奥に、空港の管制塔と飛行機が飛ぶのが見えます。



銀賞

(3名)



「夕暮れ道」



大賞

農林海洋科学部1年  
泉 賢吾  
2017年10月4日撮影

● 作品について

高知大学構内のグラウンド横の道にて、木々の間から差し込む日の光が美しく、この写真に収めました。

高知大学の魅力再発見

# 第1回 高知大学 フォトコンテスト

このたび、高知大学では学生と教職員を対象に第1回高知大学フォトコンテストを実施しました。本コンテストは「高知大学の魅力再発見～大学構内の風景、教育・研究活動、サークル活動など魅力が伝わる写真～」をテーマに高知大学での日々の様子などを撮影した写真を募集したもので、撮影者の感性が光る作品が揃っていました。

入賞作品 Photo Contest



11月30日に実施された表彰式では学長から入賞者7名に表彰状と記念品が授与されました。



今回受賞した7作品とそのほかの作品はホームカミングデー(11月4日)の際や、メディアの森で展示(11月15日～30日)されました。展示期間中は多くの方に作品を鑑賞していただきました。



「秋の  
メインストリート」



特別賞

教育学部(教員)  
赤松 直  
2016年11月19日撮影

● 作品について

青い空に紅葉が映えています。



「夕暮れの  
景色」

人文学部4年  
佐助 (ペンネーム)  
2017年10月26日撮影

● 作品について

メディアの森の窓から見える夕暮れがきれいだったので、撮りました。



「山仲間」

人文学部3年  
宮城 孝彰  
2017年9月5日撮影

● 作品について

ワンダーフォーゲル部の夏合宿中に北アルプスの奥穂高岳で出会った特別天然記念物の雷鳥。



金賞

(2名)

応募総数

59点

学生/29作品  
教職員/30作品

たくさんのご応募ありがとうございました



# キラ★星 高知大生

学内外でキラッと光る 高知大生をピックアップ!

## 高知県展で 新人賞を受賞!

さまざまなジャンルの美術作品が一堂に会する、高知県最大の公募展「高知県美術展覧会(県展)」。高知大学でも毎年、多くの学生がチャレンジしています。今年10月に開催された「第71回県展」では、教育学部3年の岩貞侑佳さんが日本画部門で、受賞歴のない30歳以下の作家に与えられる「新人賞」を受賞する快挙を果たしました。岩貞さんが日本画を描き始めたのは、大学3年になって専攻として選んでから。始めてからわずか4カ月で手掛けた作品が受賞したことに、「まさか新人賞をいただける」と驚きを隠せません。

岩貞さんが日本画を選んだ理由は、高校時代の美術部の恩師が日本画を描いていたことからだそうです。「それまでは油絵に取り組んでいました。何度も塗り重ねることができる油絵は、勢いをつけて描くことができます。しかし、日本画はもっと繊細で、画材の扱いも難しいものです。日本画を始めてから、以前の自分とは違う、「静かな絵」を描いていると思います」

周囲の勧めもあり、県展に挑戦。構想に1カ月かけてから、50号近い大作に仕上げました。「日本画の優しい色合いが好きなので、色の感じを大切にしました。好きなものを日本画で描いてみたいと思い、ドライフラワーやガラスの小瓶などお気に入りの集めた世界に仕上げました」

受賞した作品のタイトルは、「暎(まぶた)を伏せる」。目を伏せた女性を中央に、その周りを白馬や美しい魚が宙を飛び不思議な画面は、一見、日本画とはかけ離れているように見えます。「高校の恩師から、『あなたはあなたの絵を描いたほうが、いい絵を描ける』とアドバイスを受けたこともあり、特に日本画つばさを意識したことはありません。絵を学んだことのある父は『つたない感じだけど若さが感じられてすごくいい』と作品を見て言ってくれました」



(新人賞受賞作品)暎を伏せる

日本画を始めて4カ月

実は、岩貞さんの作品はすでに、多くの人の目に触れています。教育学部のパンフレットの表紙に、見事な「黒板アート」の作品が採用されているからです。これは高校時代に同じ美術部に属し、現在は他大学で学ぶ友人と描き上げたもの。2人は高校3年生の時、「黒板アート甲子園」のプレ大会で全国最優秀に選ばれました。「高校の教室の黒板を使って、2人で2日間、8時間かけて描き上げた作品でした。黒板は授業で使われる予定があったので、作品を写真に撮ったら、あっという間に黒板消しで消去(笑)。まわりの人からはもったいないと言われましたが、私も友人も描き上げたことに満足していました」

受賞をきっかけに、大学のパンフレットのほか、高知新聞の紙面や人気バンドのCDジャケットにも作品が使われました。



(黒板アート)高知大学教育学部パンフレット表紙

今は日本画に専念している岩貞さん。来年の県展に向けて、一枚でも多く作品に取り組みたいと、早くも意欲が高まっています。その一方で、小・中学校の教員免許の取得を目指して勉強中です。「教職のほかにも、いろいろな選択肢があることに気が付いて、今は迷っているところです。美術や芸術、デザインに関わる仕事につくことが理想です。」

大学卒業後も、絵を描き続けていきたいという岩貞さん。どのような作品を生み出していくのか、これから楽しみです。

教育学部 学校教育教員養成課程3年 いわさだ ゆうか 岩貞 侑佳さん

高知県出身。幼いころから、絵を描くのが好きだったと話す。「専門の先生の指導を受けながら、日本画の大きな絵を描くことは、大学からできること。日本画を専攻してよかったと思います」



※臨床推論とは 問診と基本的な診察などの情報から、病気を推定すること

『総合診療医ドクターG』

活動内容はまるで、

医学部に抜群の人気を誇るテレビ番組『総合診療医ドクターG』をご存知ですか? 実際の症例を元にした再現ドラマを研修医たちが見て、病気を探り当てようとする謎解き番組です。今回紹介する高知大学医学部のサークル「ACT-K」は、その人気番組さながらのユニークな活動をしています。



「臨床推論」のトレーニングとして、毎回、出題者が特定の患者を設定し、ほかは医師役となって、どのような病気なのかを考えていきます」と5年生の部長、岩出良介さんが説明します。病院で診察するように、まずは問診からスタート。医師役の質問に患者役が答える形で、いつからどこに、どんな症状が現われているのかなどを明らかにしていきます。

次は身体所見で、例えば腹痛がするという設定なら、おなかを叩いたらどんな音がするのか、といった受け答えをします。さらに必要であれば、検査についての情報交換も行い、診断に必要なヒントを少しずつ積み重ねていきます。

1回の活動時間は90分。その間、シンキングタイムを設けますが、正解率は低いとか。まあ、番組では

「ACT-K」の活動は週1回。学内の総合病院を訪ねて、実際の医師に出題者役を務めてもらっています。まさに「ドクターG」そのもので、一層レベルの高いカンファレンスを体験することができます。

医師国家試験に向けた対策としても効果あり

まるで推理ゲームのような「ACT-K」の活動。メンバーは大いに楽しみながらも、学びの一環として、真面目に取り組んでいます。「ほかの医師役の質問を聞いていると、こういった広い視野が必要だと、すごく勉強になります。将来に直結する勉強法の1つかなと思っています」と岩出さん。最近の医師

「以前から『ドクターG』が大好きで、総合診療医に興味があります」と話すのは5年生の副部長、杉本裕紀さん。「問診が非常に大事になってくるので、その力を培うための良い経験になると思います。また、出題する側になった時には、設定する病気を調べるので、より深い勉強になりますね」

唯一の1年生、吉田匠悟さんは「まだ医学知識はありませんが、活動は面白く、先輩方が丁寧に教えてくれるので勉強になります。出てきた病気について、来年以降のために予習しておこうと意欲も湧きます。医学に対するモチベーションの維持にも役立っていますね」と語ります。



医学部医学科5年 臨床実習生 杉本 裕紀さん

医学部医学科5年 臨床実習生 岩出 良介さん

医学部医学科1年 吉田 匠悟さん

## ぼくらのキャンパスライフ

高知大生の今にエール!

# 楽しみながら、臨床のノウハウを学ぶ

研修医の方でもなかなか難しいので(笑)。ぼくらの場合、正解に近づいたけど、ギリギリ当たらなかった、というのが理想かもしれません。なるほど、そうなのかな?と思うと、知識として深く刻まれますから」と岩出さんは話します。

「ACT-K」の活動は週1回。学内の総合病院を訪ねて、実際の医師に出題者役を務めてもらっています。まさに「ドクターG」そのもので、一層レベルの高いカンファレンスを体験することができます。

医師国家試験に向けた対策としても効果あり

まるで推理ゲームのような「ACT-K」の活動。メンバーは大いに楽しみながらも、学びの一環として、真面目に取り組んでいます。「ほかの医師役の質問を聞いていると、こういった広い視野が必要だと、すごく勉強になります。将来に直結する勉強法の1つかなと思っています」と岩出さん。最近の医師

「以前から『ドクターG』が大好きで、総合診療医に興味があります」と話すのは5年生の副部長、杉本裕紀さん。「問診が非常に大事になってくるので、その力を培うための良い経験になると思います。また、出題する側になった時には、設定する病気を調べるので、より深い勉強になりますね」

唯一の1年生、吉田匠悟さんは「まだ医学知識はありませんが、活動は面白く、先輩方が丁寧に教えてくれるので勉強になります。出てきた病気について、来年以降のために予習しておこうと意欲も湧きます。医学に対するモチベーションの維持にも役立っていますね」と語ります。

## ACT-K

「Association of clinical training Kochi」の略。メンバーは約20名。4年生以上が大半だが、全学年に門戸を開いている。活動は毎週火曜で、前日に「明日の患者は45歳男性、主訴腹痛」といった具合にメンバーに予告。事前に予習したうえで、当日、数人ごとの班に分かれて頭をひねる。

## 第57回 室戸貫歩を開催

空手道部主催の第57回室戸貫歩を11月25日(土)・26日(日)に開催しました。高知大生をはじめ教職員と市民ら434名の参加者は、高知市の朝倉キャンパスから室戸岬までの約90キロの道のりを夜通し歩き、制限時間30時間以内でのゴールを目指しました。

開会式では、藤田尚文理事(教育・附属学校園担当)が参加者に激励の言葉をかけ、空手道部戸梶良輝主将と共に「頑張るぞ〜!」の気合のかけ声を行い午前9時に一斉スタート。沿道では、地域住民による温かい豚汁などの支援もあり、足の疲れにも負けずに276名がゴールの室戸岬に到着しました。



## 高知大学 「こうち観光カレッジ」開講

COC+事業「まち・ひと・しごと創生高知イノベーションシステム」事業の一環として、11月14日に高知の観光での中核人材を育成する「こうち観光カレッジ」を開講しました。

開講記念として、世界トップレベルの観光ノウハウを各地に広めるカリスマ、JTIC.SWISS代表の山田桂一郎氏を講師に迎え、「高知が選ばれ続けるために必要なこと」というテーマで基調講演会を開催し、「こうち観光カレッジ」受講生、一般社会人及び大学関係者を含む約100名が熱心に聴講しました。講演会では、今からやろうとするビジネスについての成果や結果の最終目標をどの辺まで想定し、一体何のために進めるのかとの問い掛けから始まり、過去、各地にて実施されてきた事業の例を挙げ観光事業の原点を考えました。

「こうち観光カレッジ」では、平成30年2月末までの間、延べ7日間34時間に亘る座学と観光プロジェクト企画実習などを実施し、観光分野で活躍できる人材の育成を目指しています。



## 第8回ホームカミングデー “絆 ふれあい〜過去、現在、未来〜”をテーマに開催



家族de高知大(左端から2名が表彰のご家族)  
(右端から田中同窓会連合会会長、脇口学長)



記念講演 講師の清田明宏氏



合唱団と参加者全員での学歌斉唱

11月4日、記念式典や記念講演、各学部イベントに多くの卒業生、学生、教職員らが参加しました。記念式典では、脇口宏学長、田中拓美同窓会連合会会長の挨拶に続き、高知大学合唱団と参加者全員で学歌を斉唱した後、2世代以上にわたり高知大学で学ばれた家族を表彰する「家族de高知大」を実施し、申し出のあった2組が紹介され、感謝状と記念品が贈られました。

記念講演では、国連バレスチナ難民救済事業機関(UNRWA・ウンルワ)保健局長の清田明宏氏(高知医科大学卒業)が「高知から世界へ・世界から高知へ」と題して、学生時代の思い出や、高知大学とUNRWAの歴史の関係性に触れつつ講演し好評を博しました。

そのほか、元留学生による講演、高知大学写真展、裏千家茶道部によるお茶会、よさこいサークルの演舞、学園祭「黒潮祭」の模擬店などで終日賑わいました。

## 平成29年度大学教育再生加速プログラム(AP)事業シンポジウム 「卒業時における質保証の取組の強化」を開催

10月28日、東京国際交流館(東京都江東区)にて、茨城大学、日本福祉大学、山形大学との共催で、大学教育再生加速プログラム(AP)事業シンポジウムを開催しました。

シンポジウムには、高等教育関係者等の約170名が参加し、文部科学省の河本氏や京都産業大学の川島氏による講演及び茨城大学の畠田氏や山形大学の浅野氏、本学の藤田理事による事業報告の他、日本福祉大学の中村氏による挨拶やパネルディスカッション、AP事業採択校16校によるポスターセッションなど、大学教育の質保証について様々な議論が交わされ、AP事業のみならず大学教育全般にわたる教育改善を考える貴重な機会となりました。



(上)パネルディスカッションの様子  
(右)ポスターセッションの様子



## 四国大学サッカーリーグ優勝 24年連続33回目の 「全日本大学サッカー選手権大会」出場

四国大学サッカーリーグで優勝し、24年連続33回目となる「全日本大学サッカー選手権大会」に出場し健闘しました。また、こどもサッカー教室(11月11日、26日)を開催し地域貢献活動も行っています。

教育学部4年で高知大学サッカー部の西埜植颯斗さんが元日本代表監督の岡田武史氏がオーナーを務めるサッカークラブFC今治への正式に入団が決定いたしました。



## 第37回中四国学生剣道新人大会 女子剣道部優勝、 神崎陽日さんが最優秀新人賞を受賞

12月3日に高松市総合体育館において、第37回中四国学生剣道新人大会(主催:中四国学生連盟)が開催され、女子剣道部が昨年度に続き優勝しました。また、出場選手中、最も評価が高い選手に贈られる最優秀新人賞に本学の神崎陽日さんが選出されました。



## 第2回学長杯 留学生による 日本語スピーチコンテスト



(上)スピーチコンテストに参加した10名の留学生  
(右)最優秀賞に選ばれた馬芸文さんのスピーチの様子

11月29日、昨年に続いて2回目となる留学生による日本語スピーチコンテストを開催し、10名の留学生が出場しました。学長をはじめ学内外の関係者のほか、日本人学生が運営する国際交流団体「国際茶屋」、会場の参加者が審査を行った結果、最優秀賞には「小説から見つけた日本」をテーマに発表した中国出身の留学生馬芸文さんが選ばれ、脇口学長からトロフィーが授与されました。

参加者からは、「留学生の日本語の流暢さに驚いた」、「緊張している中、一生懸命語る様子に勇気づけられた」などの感想が寄せられました。

10月26日、大学の研究成果や知財等を活かした大学発ベンチャーの認定制度による称号記授与式を挙行了しました。今回、新たに株式会社海洋計測(環境計測機器、理化学機器の開発等)、合同会社シーベジタブル(陸上の海藻養殖等)、株式会社KINP(天然物を利用したスズメバチの忌避剤等)の3社を認定しました。

授与式では、脇口宏学長から称号記が授与された後、各ベンチャーの代表者から学長へ事業報告があり、「今後の事業の発展と地域貢献などに取り組んでいきたい」と力強い言葉が述べられました。

高知大学で生み出される様々な知財をビジネスとしてカタチにし、広く社会に還元していくことは、地域の大学としての高知大学が担う役割の一つであり、大学発ベンチャーの認定により、その可能性は大きく広がっています。



## 「高知大学修学支援基金」への寄附のお願い

本基金は、修学意欲を持ちながら、厳しい家計状況によりそれを断念せざるを得ない学生に対して給付する奨学金として活用します。

■問い合わせ先 高知大学総務部総務課  
TEL:088-844-8100 FAX:088-844-8738  
E-mail:sj02@kochi-u.ac.jp  
URL:http://www.kochi-u.ac.jp/shugaku-kikin/

■「高知大学修学支援基金」及び「高知大学さきかけ志金」(教育・研究・社会貢献活動による支援)に寄附を行う際に、インターネット決済サービスによる「クレジットカード決済」、「コンビニ決済」、「Pay-easy決済」がご利用いただけます。



高知大学で開催するイベントをご紹介します。

# イベントインフォメーション Event information

2018 Winter 冬号



## 第17回高知大学 卒業制作展 1/23(火)~28(日) 入場無料

教育学部生涯教育課程芸術文化コース(美術)の卒業制作展を「高知県立美術館」にて開催致します。今年のテーマは「Re.」です。このテーマには再生や復活というイメージが込められています。本展が芸術文化コースとしては最後の卒業制作展となります。西洋画、日本画、彫刻、デザイン、美術理論、それぞれの専攻生が4年間の集大成として取り組んだ作品をぜひご覧ください。



**時間** 9:00~17:00(最終日は16:00まで)  
**場所** 高知県立美術館 県民ギャラリー  
**ギャラリートーク** 2018年1月28日(日)13:30~15:00

## 平成29・30年度 式典のお知らせ

### 平成29年度高知大学 大学院修了式 学部卒業式

場所 高知県立県民文化ホール



### 平成30年度高知大学 大学院・ 学部入学式

場所 高知県立県民文化ホール



## 平成30年度入試 日程案内

	募 集	出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間
推薦入試Ⅱ	教育学部学校教育教員養成課程 幼児教育コース/教育科学コース・教科教育コース・特別支援コース	1/16(火)~19(金) (必着)	2/3(土)	2/7(水)	2/8(木)~14(水)
	農林海洋科学部		1/28(日)		
AO入試Ⅱ	土佐さきがけプログラム (生命・環境人材育成コース)	1/16(火)~19(金) (19日の消印有効)	1/28(日)	2/7(水)	2/8(木)~14(水)
一般入試 前期日程	全学部	1/22(月)~31(水) (必着)	2/25(日)・26(月)	3/7(水)	3/8(木)~15(木)
	土佐さきがけプログラム (グリーンサイエンス人材育成コース)				
一般入試 後期日程	全学部 (一部未実施の学部、学科等あり)	1/22(月)~31(水) (必着)	3/12(月)	3/22(木)	3/23(金)~27(火)

### 出願はインターネット出願のみとなります

四国の国立5大学(徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学)が共同で開設するインターネット出願サイトから出願を受け付けます。あらかじめ利用登録をすることで5大学への出願がスムーズに行えます。

・大学案内・選抜要項等の資料をパソコン・携帯電話からテレメール請求できます。

インターネットの場合  
(携帯電話・パソコン)

<http://telemail.jp>

※携帯電話・パソコンとも共有アドレスです。(iモード・EZweb・Yahoo!ケータイ)  
※スマートフォンでのアクセスも可能です。



入試に関するお問い合わせ先  
(ご意見・ご質問にお応えします。)

学務部入試課

TEL.088-844-8153  
E-mail nys-web@kochi-u.ac.jp

・入試に関する最新情報(随時更新中)  
<http://nyusi.kochi-u.jp>

**メルマガ  
配信中!**  
月2回配信(第2・4金曜日)

高知大学からメールマガジンを配信しています。大学ホームページの「入試情報」「メルマガの登録はこちら」へ!  
登録はこちら <http://daigaku.jp/kochi-u>



●お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。



**高知大学**  
Kochi University

高知大学総務課

高知大学  検索   
<http://www.kochi-u.ac.jp/>

TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033

〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp

高知大学の最新情報を伝えたい

## THE こうち ユニバーシティ CLUB

FM 高知  
81.6MHz

毎週日曜日 放送中  
(9:30~9:55)

高知大学のHPから過去放送分も視聴できます!

[http://www.kochi-u.ac.jp/outline/kouhou/radio\\_fm\\_kochi/](http://www.kochi-u.ac.jp/outline/kouhou/radio_fm_kochi/)

高知大学の教育、研究、地域貢献等の  
ホットな情報をお届けします。

スポンサー企業  
高知銀行/ソフテック

